



地域交流活動かわら版



三鷹市内中学生による職場体験、一生懸命頑張りました！



10月31日（水）から11月2日（金）井の頭キャンパスにて、三鷹の森学園三鷹市立第三中学校の生徒2名（中学2年）が職場体験を行いました。3日間の内容は盛り沢山で、入学センター、高大接続推進室、学生支援課、井の頭図書館、庶務課、キャリアサポートセンターでの職員のお手伝いや、井の頭キャンパスの見学、国際交流課での英語サロン体験など。さらに最終日には、地域交流課の業務であるかわら版の作成を体験すべく、医学部1年生『地域と大学』発表会の取材で写真撮影を担当して貰いました。

中学生からのコメント

慣れない環境で緊張する中、不明点があれば自ら質問し、得意なパソコンでの作業に至っては自信を持って取り組んでいました。その姿はとても頼もしかったです。また、英語サロン体験でボランティアの学生と英語で会話したり、図書館でアルバイト中の学生から授業や留学経験のお話を聞いたり、仕事の合間にできた学生との交流は楽しい時間となったようです。

本学としても、中々イメージのつかない大学職員の仕事を知って貰える良い機会になっていると感じています。

『最初は緊張していたけれど、皆さんがやさしく接してくれたので話せるようになりました。職員さんや大学生など色んな人達と話せて良かったです。』



『この3日間で色んな部署で作業をして、大学には沢山の仕事があると分かりました。ありがとうございました。』

医学部1年生『地域と大学』発表会、実施！

11月2日（金）三鷹キャンパス第一講堂で、100名を超える医学部1年生による『地域と大学』の発表会が実施されました。

『地域と大学』とは？

1年生の必修科目で、地域における大学の役割、地域を取り巻く課題や地域での学び方など、包括的に取り組む科目です。

『地域と大学』での取り組み

学生は4月から始動し、座学やグループワークに加え、実際に足を運んで施設見学や地域の方へお話を伺うフィールドワークなど、約半年の期間を通して活動してきました。そしてその中で発見できた地域課題や知識を基に、自分たちの見解や考え得る施策をまとめ、集大成として16グループそれぞれが設定したテーマでプレゼンテーションをしました。2年次以降は自らの専門分野である医療を学びつつ、その知識を基に様々な講義を通じて地域課題に取り組んでいくことになります。



▲写真は職場体験の中学生が撮影しました！教室内の学生数や熱心に発表する大学生の姿に圧倒されている様子でした。

～世界中から集まった学生が「ヒロシマと平和」について英語で討論～

7月31日（火）から8月10日（金）広島市立大学で開講された夏期集中講座『HIROSHIMA and PEACE』に、平和首長会議の加盟自治体である三鷹市の青少年代表として、外国語学部英語学科4年 福田むつ美さんが参加しました。

『HIROSHIMA and PEACE』とは？

世界中から集まった学生等が「ヒロシマと平和」を英語で学び討論する講座です。平和首長会議では、この講座へ加盟自治体の青少年を招へいし、参加に必要な経費の一部を支援する事業を実施しています。国内加盟自治体から参加できる人数は1,730都市の中でわずか2名。一定以上のTOEICスコアが求められる等、広島市立大学及び平和首長会議事務局での審査・選考を通過するのは決して簡単ではありません。

広島での取り組み

福田さんは、カメルーン・ブラジル・イギリス等から集まった8名の青少年に交じって9日間のプログラムを受けました。初日のオリエンテーションや開式以降は、英語での講義、グループディスカッションや発表、平和記念資料館等へのフィールドトリップの他、被爆の実相や想いを被爆者の方にお話頂く機会もありました。最終日には、大事だと思った事や今後どうして行くべきかについてグループでのプレゼンテーションを行い、見事優秀賞を受賞しました。

9日間を共にした仲間とは今でも交流があるようです。

福田さんからのコメント！

平和や核兵器が身近なものであると分かった。また違う国だからこそ、話し合いの中で同じ考えや異なる観点での意見から得られるものがあつた。語学力の点では、録音した講義を何度も聴く等の工夫をしたので、理解はある程度できたがディスカッションでは外国人の流暢さと発言力に圧倒されてしまった。この経験を糧に英語の勉強にはより一層力を入れ、平和についても理解を深めていきたい。



第49回羽村市産業祭に学生16名が参加！

11月3日（土）・11月4日（日）羽村市富士見公園で第49回羽村市産業祭が開催されました。市内の諸産業と消費者団体が一堂に会し、その活動や取り組みを紹介するイベントで、市内の産業振興に加え市民と産業の融和を図ります。その中で、学内公募から4名の学生がハロウィンブーアの運営補助やごみの分別指導を、総合政策学部木暮ゼミナールから12名の学生がオリンピック・パラリンピック気運醸成ブースの充実化に向けた企画の提案及び運営を行ってきました。



ブラインドサッカー



ボランティアに初参加した仲良し3人組の学生より

串や箸まで細かく分ける作業等ごみの分別は中々大変だったけれど、それだけ大切な事だと改めて感じたし、だからこそ今後に活かせる貴重な経験だと思う。決して楽ではなかったが3人だったから楽しかったし、地域からボランティアに参加された方の熱心さと親切さに何度も助けられた。（観光交流文化学科2年 南場さん、田口さん、永瀬さん）

オリ・パラクイズ



木暮ゼミナールの取り組み

木暮ゼミナールが運営した企画は3つ、①ブラインドサッカーミニ体験、②オリ・パラクイズ、③応援メッセージボード作成。これらの企画がブースに加わったことで、「企画の充実化に繋がり様々な年代の方にブース内を楽しんで頂きました。」と、羽村市担当者の方からコメントがありました。

